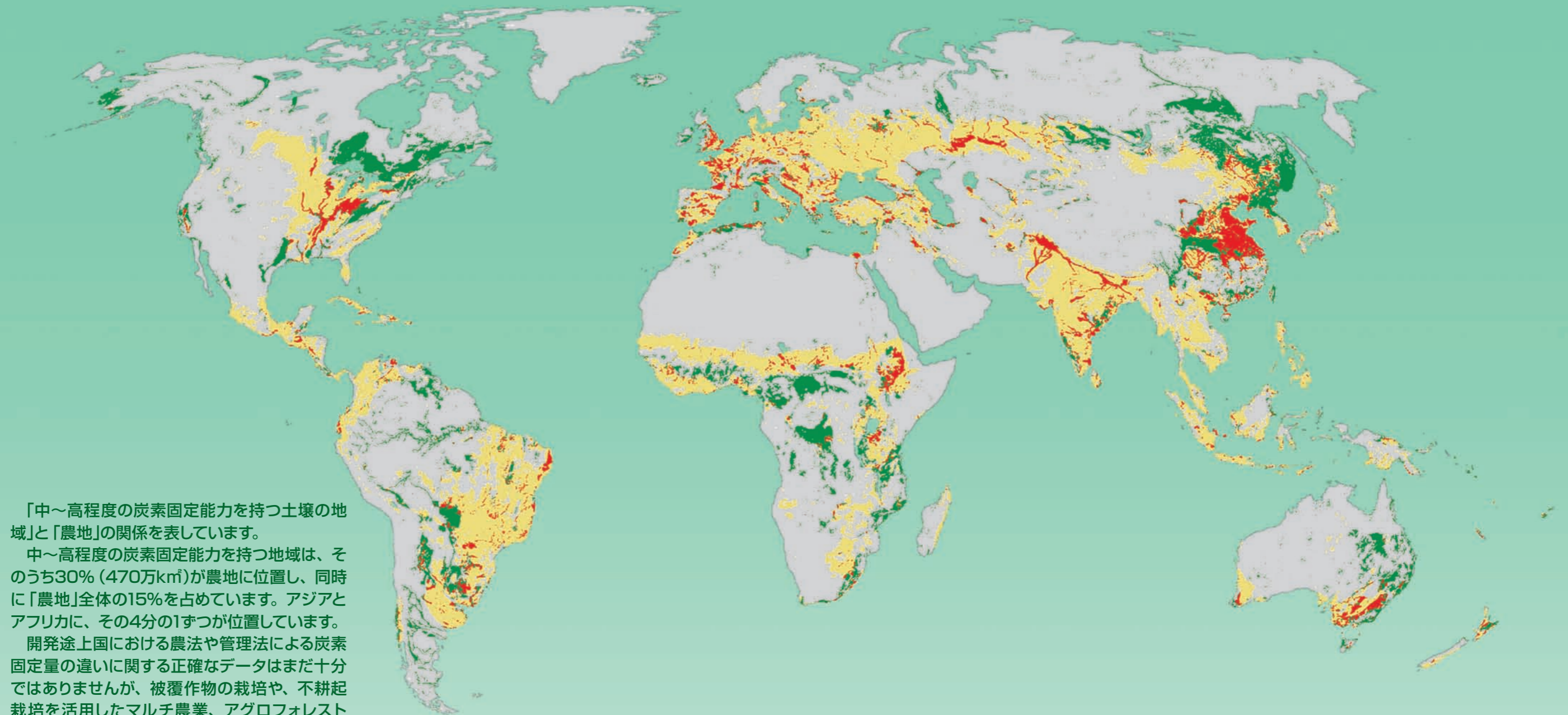


FAOの環境便益マップ

炭素固定能力を持つ土壌を 有する農地

Potential to sequester additional carbon in soils on croplands



「中～高程度の炭素固定能力を持つ土壌の地域」と「農地」の関係を表しています。

中～高程度の炭素固定能力を持つ地域は、そのうち30% (470万km²)が農地に位置し、同時に「農地」全体の15%を占めています。アジアとアフリカに、その4分の1ずつが位置しています。

開発途上国における農法や管理法による炭素固定量の違いに関する正確なデータはまだ十分ではありませんが、被覆作物の栽培や、不耕起栽培を活用したマルチ農業、アグロフォレストリーといった農法が、土壌への炭素固定を促進するといわれています。熱帯地域では上記の農地が乾燥地に比べて2倍以上の固定能力を持っているという推定データもあります。

※元データの解像度や正確性にばらつきがあるため、この地図は複数の指標において潜在性を示した範囲を一様に示しています。

出典：“The State of Food and Agriculture 2007” FAO, 2007

